

# 山形県剣道道場連盟剣道大会申し合わせ事項

平成27年 4月 5日 制定  
平成29年 4月 2日 改定  
令和 2年 5月31日 改定  
令和 6年11月10日 改定

## 1. 大会運用及び規則の運用について

本連盟主催の大会は、全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則及び細則」、および本大会の申し合わせ事項により行うものとする。

### (1) 競技方法について

- ① 試合時間は小学生2分、中学生3分。時間内に勝敗の決しない場合
  - ◎団体試合は引き分け
  - ◎個人試合は、その大会の規則に従う
- ② リーグにおけるチームの引き分けの際は、その都度勝負を決定せず、リーグ戦終了後に下記の(イ)～(ハ)の順で高得点数のチームを上位とする。
  - (イ) チームの勝ち点の総数(勝3点、分1点、敗0点)
  - (ロ) 勝者数の総数
  - (ハ) 取得本数の総数。全てが同数の時は代表戦を行う。
- ③ 代表者戦は一本勝負とし、それまでの団体戦と同様に代表者以外の選手も入場・整列終了を行う。試合時間はそれまでと同じ。その時間内で勝敗の決しない場合は、小学生は2分ごと区切り、中学生は時間を区切らず延長戦を行い勝敗を決定する。代表者戦の選手は誰でもよいが試合に出ていない補欠は含まない。
- ④ 代表戦において、補欠と交代した選手の再出場は認めない。
- ⑤ 団体戦の選手変更は以下の方法、条件内で認める。
  - (イ) 審判・監督会議前までに所定の届けを大会事務局へ提出する。
  - (ロ) 変更できる選手の人数は2名以内とする。
  - (ハ) 先鋒から大将までのオーダーは変えられない。
  - (ニ) 新たな選手を入れる場合は、補欠を飛び越して選手と直接変更することはできない。
  - (ホ) 審判・監督会議終了以降に補欠を起用する時は、監督が審判主任へ申し出て承認を得る。

⑥ 団体戦の試合開始は、監督が控え席に着いた後に開始する。

(2) 試合はすべて一刀(一本の竹刀)にて行うものとする。二刀にての試合は認めない。原則構えは中段とし、片手技は有効打突としない。突き技は禁止する。

### (3) 竹刀について

- (イ) 鐙は固定すること。革色および白色以外の鐙の使用は認めない。
- (ロ) 弦の色は、白・黄・紫とする。
- (ハ) ビニールやテープなどを巻き付けた竹刀を使用しないこと。
- (ニ) 竹刀は、SSPシール(全日本剣道連盟の試合規格を満たす品質保証)が貼付けされているものを使用すること。(試合中発見した場合は交換してもらう)

(4) 合議後に反則を宣告するときは、反則の内容を明示する。

### (5) 判定基準

- ① 技能の優劣  
有効打突に近い打突の多い方。
- ② 試合態度  
氣勢・姿勢態度が良好で攻めている方。  
①②を総合的に判断し判定する。

- (6) 足袋・サポーター・テーピングテープの装着について
  - (イ) 足袋・サポーター(かかと保護のための剣道専用サポーターを含む)・テーピングテープの使用を認める。
  - (ロ) ゴム張り・革張りの足袋・サポーターは認めない。
- (7) 試合者の名札等について
  - (イ) 試合者の名札は、前垂れに道場名(全道連登録名)・姓を明記した名札を着装用すること。同姓の選手がいる場合は、区別できるようにする。
  - (ロ) 選手は、少年剣士章(ワッペン)を剣道着右上腕部に必ず着けて参加すること。

## 2. 選手心得

- (1) 選手は、道場剣士らしく気品のある態度で全力を挙げて試合する。
- (2) 選手は、常に竹刀の点検を行い完全なものを使用する。
- (3) 選手の服装は、紺(黒)または白の剣道着・袴とする。なお、刺繍等により華美にならないこと。
- (4) 試合者の剣道着・袴には、目立つチーム名などを大きく入れてはいけない。目印(たすき)を着ける時は、折り返した2枚の長さが揃うように着ける。
- (5) 貴重品の保管には十分留意する。
- (6) 滑り止めのための雑巾等は使用しない。

## 3. 監督等の責任について

監督及び引率責任者は、試合会場内での選手等の試合や稽古、行動等について指導責任を有する。

## 4. 監督心得

- (1) 監督の服装は背広、ネクタイ、または剣道着、袴とする。
- (2) 試合場に入れるものは監督・選手・定められた補欠だけで、他の者の入場は厳禁とする。  
(但し、大会主催の判断による)

## 5. 事故の処理

選手が負傷した場合は、医師の判断により、試合継続の可否を決定する。但し、医師不在の場合は、監督の意見を聞いた上、審判主任と審判員3名が審判長の了解を得て、試合継続の可否を決定する。その場合、原則として5分以内で結論を出す。

## 6. その他

試合放棄に対する措置及びその他の記載のない事項については、全て大会関係者による協議を行い、最終には大会会長が決定する。

試合放棄とは事故や負傷などによる棄権ではなく、運営や判定に対する不満により、試合を一方的に棄権した場合をいう。